Nagoya Central Hospital NEWS
『名古屋セントラル病院』ニュース 夏 2019

開院１００周年記念イベントを開催しました！

５月１２日（日）に、健康増進を目的とした開院１００周年記念イベントを開催しました。当日は、名古屋駅のさわやかウォーキングのコースの一部として院内を開放して、２，０００名以上の方にお越し頂きました。

当日は、一般の方々が普段入れない『手術室』『放射線治療室』の見学、技師や看護師による『骨密度測定』『血糖測定』、救急医療で日頃緊密に連携している中村消防署の協力による『放水体験』など、多数のイベントを院内各所で実施しました。

参加者からは「血圧や血糖を測定してもらい、自分の健康管理を考える良いきっかけとなった」といった好評の声を数多く頂きました。

今後もより多くの方に愛され親しまれる病院として、安全で質の高い医療を提供できるように、当院一丸となって取組んでまいります。

胃カメラ体験ブースの様子

手洗いチェックブースの様子

平成３０年度下期当直医表彰を実施しました

平成30年度下期に、救急当直業務において、救急患者の積極的な受入れを行い、大きく貢献した当直医を表彰しました。引き続き、質の高い救急医療の提供に向け、取組んでいきます。

【受賞者】消化器内科　神谷　友康

腎臓内科　　坂　あや子

第96回 病診連携勉強会

意外と身近にいる 脳神経外科治療対象疾患

脳神経外科 科長 中原（なかはら） 紀元（のりもと）

平成31年４月16日（火）、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

脳神経外科では、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷が治療対象の多くを占めています。実際にはこれらの疾患以外にも、脳神経外科で治療可能であるにもかかわらず、見過ごされていたり、どの診療科を受診してよいかわからず症状に苦しんでいたりする患者さんが意外と身近にいることがあります。その代表的な疾患として、特発性正常圧水頭症、顔面けいれん、三叉神経痛を紹介したいと思います。

特発性正常圧水頭症は高齢者に多く、特に先行する原因もなく歩行障害、認知障害、尿失禁などのいわゆる三徴候が出現します。画像診断では、DESH（Disproportionately Enlarged Subarachoid-space Hydorocephalus）と呼ばれるくも膜下腔の不均衡な拡大を伴う脳室拡大（Evans index＞0.3）が特徴です。診断としましては、髄液排除試験（タップテスト）を行い症状の改善度を確認します。治療はシャント術ですが、従来の脳室腹腔シャント術に加え腰椎腹腔シャント術も選択されようになってきました。シャントシステムも圧可変式バルブが開発され、術後でも圧の微調整が可能となってきております。

顔面けいれんおよび三叉神経痛は、小脳橋角部で各々の神経が脳血管に圧迫されることが最も多い発症原因と考えられております。顔面けいれんは通常眼周囲の顔面筋から始まり、頬部さらには口周囲の筋肉へとけいれんの範囲が広がってゆきます。重度になりますと目が閉じたまま開かなくなる機能盲とよばれる状態まで悪化することもあります。抗てんかん剤を中心とした薬物治療は有効性が低く、ボツリヌス毒素（ボトックス）療法が最初に選択されることが多いです。根治治療としまして手術（神経血管減圧術）を行うこともあります。

三叉神経痛は、食べ物を口に入れたり、歯を磨いたりという日常生活に不可欠な動作により誘発され、耐え難い痛みを生じます。通常薬物治療が有効で、カルバマゼピン、プレガバリン（リリカ）の投与を行います。薬物治療の効果が減弱したり、副作用が強くなったりして日常生活に支障がある場合等には手術（神経血管減圧術）行うこともあります。最近ではガンマナイフによる定位放射線治療が保険適応となっており治療の選択肢が拡大しています。

以上の疾患は、生命にかかわるような病気ではありませんが、生活の質は著しく損なわれ、患者さんにとって深刻な問題となっていることもあります。これらの患者さんは適切な治療を受けることにより病状が劇的に改善する可能性がありますが、最初から脳神経外科を受診されるわけではありません。患者さんが地域医療を支える先生方に相談される機会も多いと思われますので、その際には脳神経外科を受診するようにお勧めください。

第97回 病診連携勉強会

変形性膝関節症の治療戦略

整形外科 科長 髙木（たかぎ） 英希（ひでき）

令和元年６月18日（火）、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

膝関節は、可動性と支持性の機能を合わせ持って下肢の運動の中心的な役割を果たしています。膝の関節軟骨が老化により弾力性を失い、すり減ってくると変形性膝関節症を発症します。肥満や遺伝素因も関与しており、また骨折、靭帯や半月板損傷などの外傷、化膿性関節炎などの感染の後遺症として発症することもあります。男女比は1：4で女性に多くみられ、高齢者になるほど罹患率は高くなり、有症者数は約800万人といわれています。

主な症状は膝の痛みと水がたまることです。初期では立ち上がり、歩きはじめなど動作の開始時のみに痛み、休めば痛みがとれますが、正座や階段の昇降が困難となり（中期）、末期になると、安静時にも痛みがとれず、変形が目立ち、膝が完全に伸びず歩行が困難になります。問診や診察、時に触診で膝内側の圧痛の有無、関節の動きの範囲、腫れやO脚変形などの有無を調べ、レントゲン検査で診断します。必要によりMRI検査などをします。

膝痛患者の治療方針

- 急性期
  - 薬物：NSAIDs、Cox2i
  - 関節内注射：ステロイド（関節水腫がある場合）
  - 膝装具、サポーター
- 疼痛の遷延
  - 薬物：アセトアミノフェン、トラマドール、デュロキセチン
  - 関節内注射：ヒアルロン酸
  - 運動療法、減量を含めた生活指導
- 疼痛の悪化
  - 構造破壊（90歳未満）：手術（TKA、UKA）
  - 手術適応なし：薬物治療強化、歩行装具

症状が軽い場合は痛み止めの内服薬や外用薬を使ったり、膝関節内にヒアルロン酸の注射などをします。また大腿四頭筋強化訓練、関節可動域改善訓練などの運動器リハビリテーションを行ったり、膝を温めたりする物理療法を行います。足底板や膝装具を作製することもあります。このような治療でも治らない場合は手術治療も検討します。これには関節鏡（内視鏡）手術、高位脛骨骨切り術（骨を切って変形を矯正する）、人工膝関節置換術などがあります。中でも人工膝関節置換術は最も費用対効果に優れた治療法とされています。

人工膝関節置換術は日本国内で40年以上前から行われている手術です。整形外科では一般的な治療法として定着し、手術件数は年々増えており、今では年間8万例以上にも上ります。また、厚生労働省の公開データによれば、人工膝関節置換術を受けられる患者さんの平均年齢は75歳と、比較的高齢の方が手術を受けられていることがわかります。

当院では、ナビゲーションを使用してインプラントを正確に設置すること、抗菌縫合糸の使用など可能な限りの感染予防対策をとること、大腿神経ブロックを含め多種類の鎮痛薬を使用した疼痛対策をとること、術中術後出血量を減らすための出血対策をとることに力を入れて、患者様にとって安心安全な医療を提供することを心がけています。

まとめ

- 変形性膝関節症の管理は、非薬物療法と薬物療法の併用が重要
- 非薬物療法は、生活指導、運動療法、装具療法が有用
- 薬物療法は、急性期はNSAIDs、COX2iを使用して炎症の鎮静化を図ることが重要（慢性期には慢性疼痛治療に準じる）
- 保存療法が奏功しない場合は、時期を逃さず費用対効果に優れる人工膝関節置換術を推奨

標榜診療科名変更のお知らせ

本院では患者さんへ脳・神経の診療を行う診療科をわかりやすくするため、令和元年10月1日より、下記のとおり「神経内科」の標榜診療科名を変更することとなりましたのでお知らせいたします。

なお、診療内容、医師の体制については変更はございません。

変更内容：標榜診療科名「神経内科」　→　「脳神経内科」

Event

第98回病診連携勉強会

日　時：令和元年8月20日（火）14：00～

会　場：名古屋セントラル病院　２階　多目的ホール

講　師：呼吸器内科　医長　川口　裕子

テーマ：非小細肺癌の治療について（化学療法を中心に）

日本医師会生涯教育講座　カリキュラムコード：０（その他）

第99回病診連携勉強会

日　時：令和元年10月8日（火）14：00～　※10月は第２週火曜日の開催となります

会　場：名古屋セントラル病院　２階　多目的ホール

講　師：眼科　副医長　恒川　明季

テーマおよび日本医師会生涯教育講座カリキュラムコードにつきましては、別途ご案内いたします。

■病院理念

1　安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療

2　健全な病院経営による地域社会への貢献

3　協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

1　地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する

2　医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する

3　充実した救急医療と予防医療を提供する

4　地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する

5　各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院　地域・法人連携室

〒453-0801　名古屋市中村区太閤三丁目７番７号　TEL：052-452-3165（代表）　FAX：052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp　URL：https://nagoya-central-hospital.com